



日本プライマリ・ケア連合学会
近畿ブロック支部



発行人：外山 学
事務局 〒550-0001 大阪府大阪市西区
土佐堀1-4-8 日栄ビル703A
あゆみコーポレーション内
Tel.06-6441-4918 Fax.06-6441-2055
E-mail jpca@a-youme.jp
HP primary-care.or.jp/primarycare-kinki/

ニュースレター No.21 (2017.12)

[支部報告] 奈良県支部総会、第2回奈良地方会 (10月29日)

吉本 清巳 (奈良医大 総合医療学/奈良県橿原市)

奈良県病院協会看護専門学校にて開催しました。台風22号がせまる大雨の中でしたが、地方会には会員48名、非会員18名の66名が参加してくださいました。今年是一般演題5演題の発表があり、奈良医大から新専門医制度について、南奈良総合医療センターから南和医療圏の在宅医療支援の取り組みについて、西の京病院から退院支援・退院調整に関する病棟看護師の自己評価・教育について、大福診療所から菌血症を繰り返す超高齢者のケアについて、奈良医大からラップ療法が奏功した臀部褥瘡の発表がありました。特別講演には「知って得する褥瘡ケアの極意」と題して、天理よろづ相談所病院 在宅世話どりセンター 中村義徳先生に、最新の褥瘡治療についてご講演いただきました。



地方会に先立って行った総会は、出席35名、委任状62通あり、対象会員173名の過半数以上で成立しました。事前に会員に送付していた奈良県支部会則が、賛成多数で承認されました。天候による中止も危ぶまれましたが無事に開催できました。参加頂いた皆様、場所を提供いただきました病院協会看護学校様、運営スタッフの皆様、ありがとうございました。

現在支部活動としては、この地方会以外は昨年度プライマリーエコーセミナーを開催しています。あまりたくさんは活動できていませんが、今後も県支部活動の幅を広げていきたいと思っております。

近畿ブロック支部 (KPCA :Kinki Primary Care Association) について

近畿ブロック (滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山の2府4県) に所属する学会会員で構成され、ブロック代議員会を最高議決機関としています。

ブロック支部会費は必要ありません。日常的な運営は幹事会が行っています。

- ・ **支部長** : 外山学 (学会理事)
- ・ **副支部長** : 雨森正記 (学会理事)、大島民旗、戸田和夫
- ・ **幹事** : 朝倉健太郎 (学会理事)、鈴木富雄 (学会理事)、福原俊一 (学会理事)
足立光平、石丸裕康、一瀬直日、岡山雅信、梶山泰男、木戸友幸、小泉俊三、関透、高木幸夫
武田以知郎、西尾健治、畑伸弘、羽野卓三、松井善典、三ツ浪健一、森村美奈、吉本清巳
- ・ **監事** : 大島久明、水野融
- ・ **顧問** : 空地顕一、松村理司



[支部からのご連絡] **ブロック支部活動について皆様からのご意見やご提案をお待ちしております!**
ホームページをご参照ください。

(学会トップページ <http://www.primary-care.or.jp> 講演会・支部活動：各支部・研究会連絡先 から)

【支部報告】第7回滋賀県家庭医療指導医FD研修会(9月9日)

中村 琢弥(弓削メディカルクリニック 滋賀家庭医療学センター/滋賀県蒲生郡)

弓削メディカルクリニック滋賀家庭医療学センターにて開催しました。

本会では、大きく2パートに分かれ、昨年度好評であった「ビデオレビュー」の公開実演とそのディスカッションとともに、実際の教育現場でどのように活かされているのかを体感・議論するために、滋賀家庭医療学センターの家庭医療後期研修プログラム内にて実際に行われている「症例カンファレンス」も特別公開いたしました。

方法としては、ビデオレビューパートについて今回は昨年度とは趣をかえて、指導医の外来風景をビデオに撮影し、それに対して指導医+研修生が実際の指導しながらフィードバックを行い、その後、複数名の指導医にて、様々な角度からディスカッションを行うという手法をとりました。症例カンファレンスでは研修生の悩める事例からテーマ設定を行い、そのテーマに基づいての議論を実施、さらにカンファレンス終了後に「カンファレンス中の指導医の振る舞い方について」のディスカッションも合わせて行いました。

今回はどちらのパートにも指導医や研修生に参加いただき、それぞれの教育手法にてどのように指導を行うのが効果的か、さらにはどのような準備を行うことでこれらの教育実践を現場で行うことができるかを深めるよい機会となりました。本会は今後様々な形で開催するなどの発展的な展開もあり得ると結ばれて盛会の中終了となりました。

Take Home Message : 教育手法の再現を行い、その教育の様子を俯瞰しながらのディスカッションは、普段の指導医の振る舞いについての良き振り返りの場となり得る。



【勉強会報告】第33回プライマリ・ケアを語ろう・おおさか勉強会(8月21日)

山寺 慎一(菜の花診療所/大阪市生野区)

学会の大阪地区勉強会としての歴史を持つ本勉強会が、大阪大学中之島センターで開催された。人生の最終段階における医療体制が国を挙げて整備されようとしている中、今回は「患者の意向を尊重した意志決定支援」をテーマに、神戸大学大学院先端緩和医療学特任教授の木澤義之先生を招いて学んだ。

勉強会は2部構成で、前半はアドバンス・ケア・プランニング(以下 ACP)の解説がなされ、後半は実際に ACP を導入するための方法の説明とロール・プレイによる実習が行われた。

ACPは「今後の治療・療養について患者・家族と医療従事者があらかじめ話し合う自発的なプロセス」と定義されている。従来患者の意向を医療に直接反映することができるものとして、事前指示書(AD)が存在していたが、近年の研究で AD の効力がほとんど無いことが明らかとなった。この失敗を踏まえ、ACPを作成するプロセスでは、医療行為そのものではなく患者の価値観や目標などに焦点を当てること、家族や友人など患者の意思決定を代行する人々を話し合いに巻き込むことなどが重視されるとのことであった。

ロール・プレイでは参加者全員が医療従事者役と患者役を経験し、ACPを導入する場面での患者の心情変化に注意して、患者の思いや経験を徐々に探索して、決して侵襲を与えないように配慮することが強調された。

恒例の、管理栄養士とホテルシェフによる健康ランチは、フレイル予防のためのメニューを取り上げた。カロリーを抑える(600kcal)中でいかに蛋白質をしっかり摂取するかが解説されたいへん好評であった。



[支部報告] 第3回大阪府専門研修交流会 (10月7日)

大島 民旗 (西淀病院/大阪市西淀川区)

あべのメディックスにて開催されました。年1回の開催で、今年度の新たな試みとしては、ポートフォリオの作成にニーズの高い認定薬剤師さんの参加を意識したことです。研修医・専攻医・スタッフ医師・薬剤師合わせて22名の参加でした。

西山順滋先生(関西医科大学心療内科学講座・同附属病院総合診療科)から「ポートフォリオ領域『メンタルヘルス』を意識した外来診療」と題した講演を行っていただきました。うつ患者の初回受診は65%が内科で初療を担当することの多い家庭医の診断能力が重要、治療は単剤・常用量までが家庭医療専門医の役割、医療者は問題点に注目しやすいが、

ほめることも大切である、心理社会的因子に踏み込む前に、どうして聴くかの説明をする、抱え込みすぎず、効果がなければ精神科受診を約束する、など心理的問題を持つ患者さんを診療する上でのTipsが散りばめられた講演でした。

そのあとポートフォリオ検討は、市立池田病院の専攻医の先生(エントリー領域「EBM」)と、認定薬剤師さん(服薬指導)から1作品ずつ提示してもらいました。3班に分かれて、よいところ・改善点をディスカッションし、発表者にフィードバックし全体で意見交換を行いました。

最後にポートフォリオ作成支援含め専門研修をよりよく進めるための各施設の工夫などを共有し、大変有意義な時間で、終了後の懇親会も予定以上の方に参加いただきました。



大阪府支部からのご案内 「第4回大阪府支部 年次フォーラム(総会)」

- ・日時: 2018年1月27日(土) 14:00~18:40 (19:00~ 懇親会)
- ・会場: 大阪医科大学 歴史資料館 3階 (<http://office.osaka-med.ac.jp/trad/guide/access.html>)
- ・申込&問合せ: 事務局 ミック大阪 (Tel ; 06-6946-0405 E-mail ; mic-osaka(at)mub.biglobe.ne.jp)

[支部報告] 第3回兵庫家庭医カンファレンス (10月15日)

一瀬直日 (赤穂市民病院/兵庫県赤穂市)

兵庫県下の専攻医と指導医を対象として明石医療センターにて開催、参加者18名(うち専攻医11名)で熱心なディスカッションが行われました。足立光平支部長からの挨拶につづき、第1部では新企画として指導医からのショーケース・ポートフォリオ発表を行いました。足立光平先生(あだち医院)からは在宅看取りにおける多職種連携、石丸直人先生(明石医療センター)からは認知行動療法を用いた共通基盤の形成、一瀬直日(赤穂市民病院)からはPeople-centered health servicesを紹介しました。

第2部では、平成29年度の専門医試験に合格した立花祐毅先生(赤穂市民病院)より、内容が変化しつつある専門医試験に合格するために必要な準備についての体験談を紹介いただきました。第3部はショーケース・ポートフォリオ発表を5名の専攻医が行い、全参加者がルーブリックに基づいた採点とコメントを書き発表者に渡しました。毎年発表内容・ディスカッションが洗練されており、一段とレベルが高まったことを実感しました。



[支部報告] 第3回京都支部総会 (10月15日)

水野 融 (岡田医院/京都市右京区)

国立病院機構京都医療センターには、総合内科と総合診療科があります。京都支部の小田垣孝雄先生が総合内科医長として総合診療科を担当されており、今回センターで開催させていただくことができました。総合診療科では患者さんの退院時における諸問題の検討・在宅移行の病診多職種連携も含め、幅広く考慮・対応され、円熟の技に多くの信頼が寄せられています。

小泉俊三支部長より、「京都府支部」への名称変更と報告など。関透先生から事業報告・会計報告があり引き続き講演会を行いました。

①千春会病院消化器内科部長・地域連携室長 高垣伸匡先生による CASP：今回は多職種連携の観点から睡眠薬に焦点をあてて講義していただきました。ガイドラインの作成における質向上、既存のガイドラインの評価を行う上で、PICO を用いる方法、CQ；患者さんとの1問1答など不眠症と EBM・ガイドラインについて高度で緻密な講義があり、会場からの質問にも詳しく教えていただきました。

②福知山市民病院研究研修センター長・総合内科 川島篤志先生「多職種連携を考える。不眠症・睡眠導入薬から、特に医療連携について」：講義とグループワーク。グループワークでは患者さんにお渡しするパンフレットを創る課題があり、時間が足りない楽しい講演会であったと思います。

当支部では演者にも当日参加費をいただく方法で開催中です。会場費はほぼ無料をお願いしております。当日参加費のみで運営しておりますので、是非皆さまの御参加をお願いいたします。

[勉強会報告] 第19回家族アプローチワークショップ (9月10日)

竹中 裕昭 (竹中医院/大阪市浪速区)

医療現場での家族へのアプローチ法をワークで学ぶ家族アプローチワークショップを今年も大阪で開催しました。今年のメインテーマは昨年に続き「家族のタイプ別アプローチは可能なのか？」でした。

オープニングはリフレーミング (Reframing) のワークでした。リフレーミングの概念を解説し、「男を傷つける禁句をかわいく言い換える！」というワークを行いました。

続いて行った恒例の基礎編：家族ダイナミクスワーク (写真) では、家族ダイナミクスを体感していただき、家族ライフサイクル、家族図について学んでいただきました。

応用編では、個人の性格タイプ別アプローチ、家族のタイプ別アプローチを参加者全員で考えました。家族のタイプ別アプローチでは医療者が困る4つのパターンを提示し、その対応について話し合いました。家族のタイプ別アプローチはかなり洗練されてまいりましたが、次回以降も引き続き追究したいと思っております。

その後、参加者のお一人の先生から、実際に困られているケースのプレゼンテーションを行っていただき、家族図を作成しながら実際にアセスメントを行ってみました。そして御提案いただいたのは何と家族6人に対する家族面接ロールプレイ！大所帯による大変な面接でしたが、医師役の先生は「これぞお手本！」という見事な家族面接を行ってくださいました。



近畿ブロック支部からのご案内 「第10回近畿地方ポートフォリオ発表会」

記念すべき第10回を迎えるにあたり、より一層多くのプログラムから参加していただき、盛り上げていくことができると考えております！

日時：2018年2月25日(日) 13:30～18:30 (専攻医向けカフェ企画 12:00～13:00)

会場：JEC 日本研修センター伊丹 **申込&問合せ**：kinki.portfolio2017(at)gmail.com 実行委員長 柏崎 元皓